

---

# スマブラ軍団の大乱闘な日常！！

ikki

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

スマブラ軍団の大乱闘な日常！！

### 【Nコード】

N6155M

### 【作者名】

ikkiki

### 【あらすじ】

ikkikiの小説のスタート作品です！！

（小説ではありません。スマブラ小説のはじめだと思ってください。）

## エピソード

ある日、マスターハンドとはある建物に皆を呼び寄せていた

マスハン「スマッシュブラザーズよ私の前に集結せよ!!」

5分後、彼らは瞬間移動してやってきた。

マリオ「なに!!びつくりした!!」

ピット「あーっマスハンだ!!!」

マスハン「やあ、みんな、久しぶりだな!!!」

ヨッシー「何で僕たちを呼んだの?大食い大会!!!」

マスハン「いや、そういうことではない。今日呼び寄せたのはとても大事なことを

君たちに告げるためだ」

ネス「なに？もったいぶらずに教えてよ！！！」

マスハン「よし、分かった！！みんな！聞いてくれ！

これから君たちには、ここで暮らしてもらう！！！」

全員「はああああああああ！！！！！！！！！」

マスハン「すまない！！みんな、これはとても大事なことなんだ。しかし、ここでちゃんと

高級な設備は用意してある」

ゼルダ「それは建物を見たら分かるけど、まだ誰にも連絡してないわ！！きつと朝お城が大騒ぎよ！！」

マスハン「それは大丈夫だ。心配するな。」

デデデ「なぜなのだ？我輩はワドルディがとても心配だぞい」

マスハン「なぜなら君たちの世界は時が止まっているからだ」

ピカチュウ「時が止まる？どうしてそんなことが出来るの？

マスハン「私にとってそのくらいのことは簡単だ。わたしの魔力で

あつというまだ。

ちなみにこは、まあスマブランドとでも言っておこう。

「

ウォッチ「ソレハワカリマシタ。ワタシタチハココデナニヲスレバ  
イインデショウカ？」

マスハン「すまないが私は最近娯楽に飢えているのだ。だから君たちにいるんなこと

をしてもらって、楽しみたいのだすまない私のわがままに付き合ってくれ!!」

そのとき、全員が一瞬静かになった

ロイ「いろんな・・・こと???」

ワリオ「それって我輩たちも楽しめるものなのか？」

マスハン「ああ、君たちが楽しめるものにする。君たちが辛くなるようなことはしない」

マリオ「だったらいいんじゃない？」

全員「えっ？」

また一瞬全員が静まり返る。

ルイージ「なんでなのさ兄さん??」

マリオ「だってマスハンも悪い人じゃないしこの人も悪くはない。だったら思い出作り

に最適じゃないか!!」

トウーン「確かにそうだけど・・・」

????「僕は賛成するよ。」

そういったのはピカチュウだった。

ピカチュウ「だってこの人たちは、皆優しいもん。マスハンも困ってるんだから、

協力しようよ!」

そしてこの意見が皆を動かした

リュカ「僕も賛成します」

ピーチ「私も賛成」

ピチュー「お兄ちゃんが賛成なら賛成!」

ワリオ「設備がよさそうだから賛成」

ウォッチ「カエツテモツマラナイカラサンセイ」

続々と賛成意見が出る中・・・

???「俺は断固として反対するぞ!!!」

トウーン「お前も賛成しろよ!」

ドンキー「あと賛成してないのお前だけだぞ。」

マルス「やせ我慢すんなよ！」

ガノン「うるさいわ！わしは行かんぞー」（怒）

反対していたのはガノンだった。

マスハン「頼むよガノン」

スネーク「ガノンが反対なら俺は元の世界へ帰るぞ」

このとき何かを悟ったディディーは言った

ディディー「じゃあ僕が帰る」

この行動を皆が悟った

マリオ「じゃあ俺が帰る」

ファルコ「じゃあ俺が」

ネス「じゃあ僕が」

ロボット「ジャアボクガ」

ポケトレ「いや僕が」

ガノン「じゃあ俺が」

全員「じゃどつぞどつぞ」

ガノン「うつとうしいな……いればいいんだろ……いれば……」

全員「やった……」

マスハン「まあここに入った以上俺の許可がないと出れないからな。

」

全員その場にずっとけた

フォックス「マスハンそういう事は先に言えー」

マスハン「だってなんか盛り上がったたからつい・・・」

ピチュー「まあいいじゃん！」

マリオ「マスハンそれよりもこの施設の説明をしてくれよ！」

マスハン「そうだな。これからはここをまあクラブハウスとでも呼ぼう。

皆の部屋は2階だ。それぞれ自分のネームプレートのところに入ってくれ。見たら分かるとおもうが指紋認証制だ。」

ピクオリ「安全というわけですね。」

マスハン「そしてこの1階は娯楽施設からジム、食堂までなんでもあるぞ。

ほしい施設がない場合は言ってくれ。」

カービィ「わーーーーーい 食堂だ」

マスハン「はしゃぎすぎるんじゃないぞカービィ。

それじゃまず試しにみんな2時間自由行動だ!!」

全員「ひゃっほーーーーい!!!!!!!!!!」

そして2時間後……

ピット「楽しかったよねーーーー」

リュカ「うん!」

ピットとリュカをはじめ、ぞくぞくと帰ってきた

マスハン「おい、全員いるかー?」

ウォッチ「カービィクントヨッシークンガイマセン!!」

マスハン「なに！（怒）これから大事な話をするのに!!」

カービィ、ヨッシー「ごめん、みんな、遅れちゃった。」

マスハン「まあいい。それより大事な話をするぞ。

連絡がきたら絶対1時間以内に言われた場所に来いよ。

深夜には連絡しないから安心しろ。ちなみに、

さぼるとペナルティがあるからな

それでは連絡が来るまで、解散!!!!」

全員「ひゃほ————い！自由だ——！」

マスハン「許してくれて本当によかった。さて何をしようかな？」

（  
そういいながらマスハンは笑顔であった  
顔はないが）

よろしく願いします!! 次からはギャグ小説な  
のでよろしく願いします!!

## 解散直後

これからクラブハウスですごくメンバーたち。

そしてこれは解散直後のメンバーの様子である。

ピット「リュカどうする?」

自由時間から一緒に行動していたピットとリュカ

リュカ「そうだね・・・ネスも誘ってゲームで遊ばー!!」

ピット「そうだね!ネスだ!いいところにいた、ネス、ゲームしに行こうぜ!」

ネス「いいよ。リュカも一緒に行こう！」

リュカ「うん、いいよ！」

ネス、リュカは、ピットと打ち解けたようだ。

アイクラ「ぼくたちは一緒にいるけど、マルスとロイはどうする？」

マルス「アイクは食堂へ行ったし・・・ロイ、アイクラ、とりあえず一周回ってみようよ！」

ロイ「そうだね・・・ってこのクラブハウス大きさをゴヤドーム（東京ドーム行ったことがないので）

8個分ってすごくない！！！！」

マルス「マスター金だけ持ってんだ？まあ早く行こうよ！」

アイクラ「うん！」

そういつてアイクラ、ロイ、マルスは、見学に行  
った

フォックス「なんだ、お前らも部屋に帰るのか？」

二階行きのエレベーターを待っているのは、  
フォックス、サムス、ガノン、スネーク、ファルコ、ウル  
フ、デデデ、ソニック  
メタナイト、ピクオリ、ファルコン、ミューツ、クツパ  
の13人であった。

この全員「……」

フォックス「まあ皆事情があるみたいだし、ま、いつか。」

そうしている間に、エレベーターが来た。軽く全員は乗れるような、

とても大きいエレベーターだった。

フォックス「全員乗ったな。2階へ行くぜ!!」

そして、二階へ上がって行った。

アイク、ヨッシー、カービィ「食堂へGOOOOOO!!」

食堂へ猛ダッシュの3人。食のことで3人はとても仲がいい。

ワリオ「ガッハッハ！スロットやりまくるぞー！ー！！」

ドンキー「負けねえからな！！」

デュー「負けないんだがら！！」

スロットに夢中の三人。ちなみに1番上手いのは、ワリオである。

その他のメンバーも遊びまくった。

果たしてメンバーにどんな展開が待っているのか？？

いろんな話に続く。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6155m/>

---

スマブラ軍団の大乱闘な日常！！

2011年2月25日20時18分発行